

未来が求める、
その先の学び舎へ―。

◎2009年、学校法人常磐大学開学100周年 受け継がれる創立者の想い

学校法人常磐大学は、1909(明治42)年11月に開設された裁縫伝習所に端を発する。創立者である諸澤みよ(1887~1974年)は、22歳のときに水戸市馬口労町(現在の末広町)に民家を借り受け、6畳3間、4畳半1間の裁縫伝習所を開設。伝習所におけるみよの教育は、裁縫指導にとどまらず、日常生活の中で、女性として人間としての生き方や礼儀作法などの細かい指導を行っていた。

1922年には、本科・専攻科・研究科の3課程からなる水戸常磐女学校を開設。創立86年の歴史を誇る常磐大学高等学校の前身である。1945年の大空襲により校舎を焼失したが、みよは私財を投じて、資金集めに奔走した。戦後の学制改革によって1948年には常磐女子高等学校を設置。そして、1966年、女子教育は今後の社会の進展に即応してより高度なものが要求されると考え、常磐学園短期大学を見和キャンパスに



● 諸澤裁縫伝習所の塾生とみよ 1917(大正6)年

(最前列左から7人目がみよ)

開学した。1970年には常磐学園短期大学附属幼稚園開園、1983年には常磐大学開学、1989年には常磐大学大学院設置と見和キャンパスを拠点として、拡大発展を遂げてきた。2008年には県央東北地区では初めての中等教育学校である智学館中等教育学校を開校し、地域の負託にこたえる教育機関として、時代を見据えた「実学」と「人間教育」の実践に取り組んでいる。

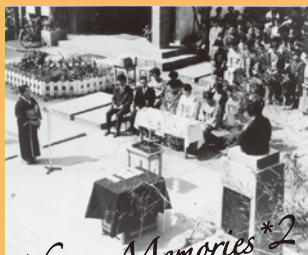
—記念事業計画進む

2004年度から2013年度までの10年間を開学100周年記念事業期間として設定し、すでに、常磐大学芝浦サテライトキャンパスの開設、同窓会館の竣工、法人のビジュアル・アイデンティティ制作、諸澤みよ記念館竣工、地域連携センター設立、智学館中等教育学校開校など多岐にわたる事業を進めてきた。

今後実施予定の記念事業としては、法人のグランドデザイン(中長期計画)を策定するほか、100周年記念史の制作、記念式典や記念講演会、本学独自の奨学金制度の制定なども計画中である。



● 常磐学園短期大学外観 1968(昭和43)年頃



Tokiwa Memories*2

諸澤みよ胸像除幕式
(1964年・常磐女子高等学校)
*解説=12p

■ 第8回アジア地域大学院コース開講

被害者学のアジアの拠点に意欲ある参加者が集う

● 活発な議論を交わし、国情の理解や相互の交流を深める

常磐大学国際被害者学研究所と世界被害者学会が主催する「アジア地域大学院コース—被害者学および被害者援助論—」が、7月28日から8月8日にかけて常磐大学見和キャンパスで開催された。被害者学や被害者援助論を2週間で学ぶ集中プログラムで、毎年、ヨーロッパ(クロアチア)、中南米(エルサルバドル)、北米(アメリカ)など、世界各地で開催されるコースの1つである。アジア地域では常磐大学がホスト校となって今回で8回目を迎えた。



講義の様子

今回のコースには、インド、ネパール、中国、カンボジア、スリランカ、アメリカ、そして国内から過去最多の47名が参加。犯罪学、法学、心理学、社会福祉などを専攻する学生や研究者に加え、弁護士、判事、警察官、人権擁護活動に従事するNGO職員らが集い、活発な議論を交わしながらさまざまな国情の理解や相互の交流を深めた。講師陣には、ジョン・ドゥーシッチ研究所所長をはじめとする常磐大学の教授らとともに、ディック・アンゼンゲ教授(アメリカ/ナイジェリア)、マリアンヌ・ヒルフ教授(オーストリア)、マーク・グルーエンヒューイセン教授(オランダ)、フランツ・ウィンケル教授(オランダ)、ファチリ・ベイ教授(インドネシア)など、世界的に著名な被害者学者や被害者援助の専門家が国内外から加わり、層の厚い41コマの講義が展開された。また、水戸市

内観光や茨城県警察本部への視察などもプログラムに盛り込まれ、日本の社会制度や文化の一端にも触れながらの密度の濃い2週間となった。

今年6月、中国・四川大地震が発生して間もなくドゥーシッチ教授が現地に赴き、被害者支援の基礎について講義を行ったことがきっかけとなり、四川省成都にある西南民族大学からも2名の大学講師が参加。「災害被災者への支援体制整備」や「トラウマとPTSD」などの講義に熱心に取り組んだ。2週間の全日程に参加し、各々関心のあるテーマで立案した「プロジェクト計画書」の発表を終えた31名が、コース最終日に諸澤英道理事長から修了証書を手渡され、被害者学への思いを新たにして全員が無事帰国の途に着いた。

コース初日に行われたレセプションでは、常磐大学高等学校の箏曲部による箏の演奏が花を添え、心のこもった演奏に会場の全員が聞き入った。また、コースの事前準備から終了まで、常磐大学の学生24名がボランティアスタッフとして運営に協力。受付、写真撮影、講義資料の準備、成田空港への講師の送迎、イベントの準備、遠足への同行等に大きな力を発揮してくれた。このコースにボランティアとして参加したことがきっかけで、英語への興味が膨らみ、その後交換留学プログラムや語学研修に参加する学生も少なくない。当コースが誇れるもう1つの側面でもある。



閉講式で修了証書を手にする参加者と常磐大学教員

開学100周年記念事業の一環として招致された世界被害者学会の「第13回国際被害者学シンポジウム」が、いよいよ来年、8月23日から28日までの会期で開催となる。大会テーマは、「Victimology and Human Security(被害者学と人間の安全)」。すでに専用のウェブサイトが立ち上がり、投稿論文受付、参加登録が開始された。シンポジウム開催案内のサーキュラーも英語版、日本語版、韓国語版が作成され、世界各国の関係機関や研究者らの手に配布されている。被害者学に高い関心をもつ参加者を1人でも多く迎え入れられるよう、そしてまた、常磐大学に来られた参加者が被害者学の最先端に触れながら有意義な時間を過ごすよう、シンポジウム組織委員会メンバーが核となりながら本格的な準備が始動したところである。

● 第13回国際被害者学シンポジウムウェブサイト：<http://www.isv2009.com>

TOKIWA INTERVIEW ⑨

人間の尊厳を教育の軸に
一貫教育を実践する

～地域に敬愛される大学へ～

ハンス ユーゲン・マルクス 氏 (学校法人 常磐大学 顧問)

情報化、国際化が進む今日、教育機関にも変化に対応する改革が求められている。そんな中、今年4月に小学校を開校し、初等教育から中等教育、高等教育と一貫教育に取り組む体制を整えた学校法人南山学園。そこで、キリスト教を背景とした明確なコンセプトで総合教育を実践する南山学園の理事長、ハンス ユーゲン・マルクス先生に、一貫教育のメリットや地域が求める大学などについてお話を伺った。

「一貫教育最大のメリットは、児童、生徒、学生が同一の建学理念に従って学ぶことができることだと思います。学校では確かな学力を身につけると同時に、豊かな人間力を養うことが大切です。その人間力を伸ばすためには、一貫教育が最適な環境を提供してくれます。また余裕を持って学べるというのも、非常に良い点ですね。受験のための勉強に縛られることはありません。たとえば英語を身につけるには、非常に重要なこと。詰め込み式の受験英語は、古典英文学を研究する場合には役に立ちます。しかしコミュニケーションをとるときは、逆に知識がじゃまになる。言い回しを考え過ぎて、なかなか話し出せないのです。他にもメリットはありますが、南山学園では小学校に入学した児童を大学院まで抱え込むことはしません。児童や生徒、そして保護者の自由な選択を尊重しなければなりません。だから学園内には、自分たちの学校を選んでもらえるか、緊張感があるくらいです」

南山学園のモットーは『人間の尊厳のために』。これは、学校法人常磐大学が掲げる重要なテーマでもある。

「このモットーは、学園全体に共通しています。日本は明治維新を迎えるまで、ひとつの広大な村でした。島国でほぼ同一民族のため、他民族と接する機会が少なかったのです。しかし全員が画一的である必要はありません。人間は誰でも一人ひとり違っているから、かけがえのない存在であることを伝えたいのです」

このモットーを実践する姿勢は、マルクス先生が行う日々の学校教育にも表れている。

「今年度から、南山大学附属小学校で校長をしています。毎朝、校門に立って児童たちに声をかけています。まず最初

に、一人ひとりが大切だということを認識させるのです。ちなみにこれは、昨年度まで学長を務めていた南山大学でも行っています。…と言っても、校門に立つわけにはいかないので、キャンパスで学生に会ったとき、必ず挨拶をする。それを続けていくと、会話に発展します。いきなり話しかけても、それが校長や学長なら警戒されることはありませんから」

大切なのはトップが努力することだとマルクス先生は語る。自らがリーダーシップを発揮して、学園を牽引しているのだ。

「リーダーシップを発揮するためには、仏様のように大きな耳を持つことです。そして人の話をよく聞く。これが一番大事なことです。私が学生たちと会話をするのも、よく聞くためにに行っていること。学内の事情はもちろん、学園にどのようなことが期待されているのかを知る手掛かりになります」

では今後、地方の大学に求められることとは何なのだろう。

「地域社会から敬愛される大学じゃないと、存在する意味がありません。そのためには、開かれた大学であると同時に積極的に地域に参加する必要があります。私たち大学の関係者は、学会などで世界的に活動する機会が少なくありません。そこで養った国際的な視野を、地域社会に還元することが大切なのです。だから地域の経済界などが企画するイベントなどには積極的に参加しています」

キーワードは『シンクグローバリー・アクトローカリー』。地球規模で考え地域で動くことが、教育機関にも必要なのだ。

PROFILE



ハンス ユーゲン・マルクス ●1944年生まれ。ドイツ連邦共和国ノルトライン・ヴェストファーレン出身。ドイツの聖アウグスティヌス哲学・神学大学哲学科卒業ののち、南山大学の外国人留学生第1号として来日。1972年、南山大学文学部神学科卒業。1978年、ローマのグレゴリアナ大学にて神学博士号取得。以来、南山大学にて教鞭をとる。1993年～2008年3月まで南山大学学長。現在は学校法人南山学園理事長、南山大学附属小学校校長。



エクステンションセンター

オープンカレッジ夏休み特別企画

エクステンションセンターでは、夏休み特別企画として、「親子手作り天体望遠鏡教室」と「夏休み宇宙教室～教えて！宇宙のヒミツ」を開催した。「親子手作り天体望遠鏡教室」は、8月4日に開催され、昨年に引き続き2回目の実施。昨年を上回る56組120名の親子が参加した。講座は、コミュニティ振興学部の中村正之教授が担当。市販の望遠鏡キットの製作と天体観測の2部構成からなり、中村ゼミを中心としたコミュニティ振興学部の学生らが、実際に望遠鏡を組み立てながら製作方法を説明し、会場内をアドバイスして回った。当日は、あいにくの曇り空で屋外での天体観測はできなかったため、教室内で望遠鏡の操作方法や上手く天体を捉えるコツ、望遠鏡にビデオカメラを接続しての天体の撮影方法などを解説した。参加した



小学3年生の男子児童は、「早く自分の作った望遠鏡で月が見たい」と話し、保護者の母親は、「自分で作った望遠鏡で見る月は感動ものです。子どもたちにそうした機会を与えてくれて感謝します」と話していた。

映像資料を用いてわかりやすく解説した。宇宙食のカレーやお餅、アイスクリームなどの試食体験もあり、参加者した子どもたちは大喜びであった。親子で参加した水戸市内の主婦は、「子どもが夏休みの自由研究にする予定です。親子共々、楽しく受講することができました。宇宙食は意外と美味しかった。また、是非参加したい」と満足気に話していた。

エクステンションセンターでは、今後も親子で楽しめる講座を企画していく予定である。



平和への願い；小泉信三展を観て

行きたいと思いながらなかなか時間がなかったが、5月21日、慶應義塾大学三田キャンパスで開催されていた小泉信三展の最終日にやっと間に合い、行くことができた。生誕120年を記念して催された今回の展示会には連日多くの参観者が訪れている、と聞いていたが、その日もやはり大勢で、大学の旧図書館内の狭い展示室はほぼいっぱいだった。参観者は一つひとつの展示物を感動の面持ちで丁寧にゆっくり観ているので歩は遅く、動かない人の群れの脇を縫うようにして参観した。学生時代のノート、テニスでの活躍ぶり、その後の経済学者としての業績の数々など感動するものばかりだったが、塾長時代の訓辞「善を行うに勇なれ」は、やはり存在感を持って会場全体にメッセージを送っていたようだ。

会場中程、とりわけハンカチで涙をぬぐう人の多かったところに、戦死されたご子息信吉氏に関する展示物があった。信吉氏の出征に臨んで書かれた手紙にはこう書かれていた。「君の出征に臨んで言うておく。……僕はもしもう一度妻を選べ、といわれたら、次の世でも君のお母さまを選ぶ。同じように、もし子供を選ぶことができるとしたら、我々は必ず君を私たちの子供に選ぶだろう。」

ペンを信じ、平和を願いながら、自分の子供を戦地に送らなければならなかった父親の気持ちは



●2008年度 常磐大学・常磐短期大学 就職状況中間報告

今年度の就職環境は、企業の採用計画が前年度を上回るとの明るい見通しでスタートした。しかし、アメリカ経済の減速や原油等資源価格高騰の影響を受けて景況が後退に転じ、企業の採用意欲には不透明感が出てきている。これらを受け、最終的な就職環境は前年度に比べて厳しくなるとの見方が強くなっている。2008年度就職戦線は前半を過ぎたところであるが、就職環境の変化もあり常磐大学・常磐短期大学の内定率も決して楽観できない状況となっている。キャリア支援担当では、まだ内定を獲得していない学生に対する情報提供や個別指導に一層注力していく方針である。

内定者レポート



茨城トヨタ自動車株式会社 内定

小林 英勸

コミュニティ振興学部
コミュニティ文化学科就職活動支援プログラムで
自信を持った活動を

東 京開催の合同企業説明会で効率よく情報収集をするため、3年生の11月に業種を選択し、金融とカーディーラーに絞りました。でも、調べていくうちにカーディーラーに向いていると思い、本格的に活動を開始。5月に本命の茨城トヨタ自動車から内定を頂き、就職活動を終了しました。私は他の学生と違う個性的な就職活動をしたと考え、大学の就職試験対策講座にはほとんど参加しませんでした。でも、個性を出すにも基礎が大切。講座でマナーなどの基礎知識を学んだ上で、自分らしさをプラスするのがベストだと思います。後輩の皆さんには、自分なりの就職活動スタイルを確立し、自信を持って臨んでほしいと思います。



東日本旅客鉄道株式会社 内定

鈴木 亜衣

短期大学
キャリア教養学科就職活動を有利に行うためには
普段の授業は大切です

私 はJR東日本のグリーンスタッフとして、内定を頂きました。グリーンスタッフは、主に「みどりの窓口」でチケットの販売を行います。お客様の快適な旅行をサポートする憧れていた仕事です。

就職活動を開始したのは、2年生になってからで、特別な試験対策は行いませんでしたが、短大で受けていた授業が役に立ちました。特に、キャリア形成基礎演習で自己分析をしていたので面接でしっかりと自己PRができました。また入学してから取得したビジネス能力検定3級と秘書検定2級も、アピールの材料になりました。就職試験対策は必要ですが、普段の授業を確実に受ける大切さを実感した就職活動でした。

諸澤 篤子 [学校法人常磐大学 常任理事(一貫教育担当)]

如何ばかりだったろう。同じ戦争でご自身も爆撃に遭い、顔と手に深い火傷を負われた。その傷跡の痛々しさと不思議な程に対照的な精悍さが混在した、すさまじいとも思える面影に、後半生の小泉信三の無念さをみたような気がした。後年のことばに「信吉、信吉、と妻の子を呼ぶ声が、今も耳元を離れない」とあるのは、あまりにも悲しい。

会場をでて図書館の石段のところ立つと、前日の大雨に洗われた三田の山の緑が目にしみた。「戦争を知らない子供」として生まれ、育ち、そして今、私は我が子を戦地に送らなくても良い。そう思った時、自分がこの時代に、この場所に生きてきたことがこの上なくありがたく感じられ、感謝の気持ちが溢れて、思わず青空を見上げた。

(著作2点『ペンは剣よりも強し』『練習は不可能を可能にする』は情報メディアセンターで閲覧できます。お時間のおありの時にご覧下さい。)

2008年度常磐大学FDフォーラム開催

● 授業を改善する組織的な取り組みを実施



大学の授業を改善するための組織的な取り組みである『2008年度常磐大学FDフォーラム』が9月5日に開催された。今回は、学生の保護者や茨城県内外の高校の教員にも公開し、授業に取り入れた実践事例の報告や討論会を実施。常磐大学で行われる授業について活発な意見交換が行われた。

サブタイトルとして掲げたのは『本学教員による授業改善の取り組み』。教員が互いに授業の仕方や考え方を報告し、より良い授業の在り方を発見する手掛かりにすることがテーマだ。開会に際

しては、常磐大学FD委員会の委員長を務める森山哲美副学長が、フォーラム開催の目的や経緯を説明。引き続き、国際学部の依田泉教授が『国際学部におけるプレミナールの取り組み』というタイトルで報告を行った。そして次に行われた『授業改善事例報告』は、伊佐山忠志教授・伊田政司教授・島田茂樹准教授・堀口秀嗣教授・水嶋英治教授・町英朋講師・宮本聡介准教授・森山哲美教授の8名が担当。授業終了後に学生が授業の感想や質問などを書き込み提出する『大福帳』と呼ばれるシートの活用など、具体的な取り組みが紹介された。報告後に行われた総合討論でも、さまざまな意見や質問が飛び交い、授業改善に役立つ充実したフォーラムとなった。閉会の挨拶としてステージに上がった高木勇夫学長は、学生たちの基礎学力を確認することの重要性に触れ、初年次教育や補習教育の導入による学士力の向上、さらに教育開発センターの設置なども含めた全学的な教育改革の推進を強調した。

全国大会で活躍する生徒が理事長に成果を報告

- 全国高等学校総合体育大会体操部個人鞍馬の部で優勝、団体5位
- 全国高等学校総合文化祭書道部門で特別賞

群馬県前橋市で8月に開催された『第32回全国高等学校総合文化祭』の書道部門で特別賞を受賞した常磐大高校2年の中島萌さんと、埼玉県熊谷市で8月に開催された『平成20年度全国高等学校総合体育大会』で優秀な成績を修めた常磐大高校体操部の部員たちが、9月18日、諸澤英道理事長に日頃の成果を報告した。理事長は「優勝、特別賞はじめ皆さんすばらしい結果を出したことで大きな自信と誇りを持ってたと思う。今後の活躍を期待します」と述べ、一人ひとりにねぎらいの言葉をかけ励ました。

中島さんは昨年の茨城県高等学校芸術祭に書を出品し、高い評価を得、茨城県から推薦されて今回の参加となった。自分にしかできないことを、と考えて作品作りに取り組んだ。作品に押しあたる朱印は中島さんが『千字文臨』と彫ったものを、笠間焼の陶芸家である父が陶印に焼いたもの。中島さんは「300点を超える作品の中から選ばれるな

んて驚きました。これからも錬成を重ね多くの展覧会に出品して、上位入賞を目指したいと思います」と笑顔を見せていた。



中島 萌



和やかな雰囲気で行われた報告会

全国高等学校総合体育大会に出場した体操部

佐藤 宏太	全国高校総体 団体5位、個人鞍馬の部 優勝
小友 翔太郎	全国高校総体 団体5位、個人鞍馬の部 5位
檜山 和真	全国高校総体 団体5位、個人跳馬の部 2位
小田 勝朗	全国高校総体 団体5位
茅根 亜利紗	全国高校総体 出場
有賀 友利菜	全国高校総体 出場
門脇 茜	全国高校総体 出場
井坂 梨乃	全国高校総体 出場

(敬称略)

智学館中等教育学校

NEWS*

智学館のテニスがスタート

●ひとりでも多くの生徒がテニスを楽しめるように

8月25～28日、笠松運動公園テニスコートで行われた第25回茨城県中学生テニス新人選手権大会に、智学館硬式テニス部の代表が初参加を果たした。男女シングルス、女子ダブルスに出場。初出場ながらも初戦で勝利を収めた選手もいた。現在硬式テニス部の部員数は男子12名、女子21名。全生徒の3人に1人はテニス部員ということになる。

7月21日には、智学館テニスコートにおいて「親子DE tennis」が開催された。生徒の家族も含め26名が参加し、テニスを通して親子だけではなく参加者全員が交流を深め、テニスの楽しさを体感した。



「親子DE tennis」

テニス部顧問の河野公紀先生に今後の部活動また智学館のテニスについて話を聞いた。

「部活動が始まってまだ2カ月程度、部員のほとんどはラケットの持ち方も知らない初心者でした。今ではゲームを自分たちだけで進められるまでになりました。テニスプレーヤーっぽくなり始めた生徒たちを見ていると、嬉しさがこみ上げます。テニスは世界的に広く行われ、老若男女が同じコートで楽しめるスポーツです。テニス部員が触媒となり、ひとりでも多くの生徒がテニスを楽しめるようになってほしいと思います」

智学館では、日常的にスポーツに親しみ、体力をつけて心身のバランスがとれた成長を促すため、特に生涯を通して親しめるテニスを奨励し、試合に勝つことだけではなく、スポーツを楽しむことができる学校づくりを目指している。



常磐大学幼稚園

NEWS*

開園40周年記念合唱団「ときわっこ」(仮称)結成

●音楽の楽しさを、元気な歌声に乗せて

常磐大学幼稚園は、2010年に開園40周年を迎える。このたび開園40周年記念のCDおよびDVDを制作する目的で合唱団「ときわっこ」(仮称)を結成した。

結成の目的

合唱団「ときわっこ」(仮称)は、開園40周年記念事業の一つとして結成され、幼稚園生活の中で歌ってきたオリジナルソングのCDおよびDVDを制作することを目的としている。

活動にあたって

合唱団の活動の中で写真・ビデオ撮影やレコーディング等を行い、その映像および記録を開園40周年記念の配布物に使用する。また、活動の中で記録した写真やビデオ、CD、DVD等を研究目的で使うことがある。

対象

小学校1、2年生(本園の修了生に限る)及び現年長児(本園の園児に限る)

顧問及び指導

顧問 常磐大学幼稚園 園長 榎本正明
指導 常磐大学幼稚園 主任 小貫東里



*興味のある方は、幼稚園まで電話でお問い合わせください。常磐大学幼稚園 TEL.029-232-2680

せき かく
「水戸夕学講座」開講

● 最先端の情報と知識を得る学習機会を提供

エクステンションセンターでは、10月20日から2008年度後期の「水戸夕学講座」を開講する。同講座は、学校法人慶應義塾の社会人教育機関である慶應丸の内シティキャンパスが実施している定例講演会「夕学五十講」を、サテライト(衛星)配信を用いて、リアルタイムに受講する新しいタイプの講演会である。毎回、地域の方々に各分野の最先端の情報を提供し、質の高い学習機会として好評を得ている。

NO.	開講日	講師	演題
1	10/20(月)	姜 尚中 東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授	「漱石に学ぶ“悩む”力」
2	10/27(月)	国分 良成 慶應義塾大学法学部長 教授	「世界の中の中国、中国の中の世界」
3	11/6(木)	築山 節 財団法人河野臨床医学研究所 理事長	「脳の働きと生活習慣」
4	11/11(火)	内館 牧子 脚本家	「学び直しのススメ」
5	11/14(金)	細谷 功 ザカティールコンサルティング ディレクター	「地頭力を鍛える」
6	11/19(水)	加賀美 幸子 アナウンサー(元NHK) 千葉市女性センター名誉館長	「源氏物語の世界」
7	11/25(火)	三浦 雄一郎 プロスキーヤー、クラーク記念国際高等学校 校長	「限界を超える挑戦」
8	12/1(月)	羽生 善治 棋士	「勝負を決める思考法」
9	12/5(金)	小山 龍介 松竹株式会社 新規事業担当プロデューサー	「仕事を楽しむライフハック！」
10	12/9(火)	池田 清彦 早稲田大学国際教養学部 教授	「環境問題の本質～エネルギーと食糧～」
11	12/11(木)	五木 寛之 作家	「暗愁のゆくえ」
12	12/15(月)	磯田 道史 茨城大学人文学部 准教授	「『武士の家計簿』から読む幕末・維新の生き方」
13	12/19(金)	島田 亨 対談者:二宮 清純 株式会社楽天野球団 代表取締役社長 オーナー スポーツジャーナリスト	「楽天イーグルス島田が語る「経営の本質」 ～「野球・感動・夢」をビジネスにする マネジメントとリーダーシップ～」
14	1/14(水)	田口 佳史 株式会社イメージプラン 代表取締役社長、 東洋と西洋の知の融合研究所 代表理事	「東洋思想に学ぶ人間力」
15	1/30(金)	佐佐木 幸綱 歌人、早稲田大学 教授	「万葉のうた、現代のうた」

*詳しくはエクステンションセンター TEL.029-232-2852 までお問い合わせください。

「広報みと」に政策提案

● 学官連携企画～僕たちはこう考える～

現在、地方分権のあり方が問われる中、常磐大学では2006年にコミュニティ振興学部地域政策学科を開設し、教員、学生一体となって、地域活性化を様々な観点から研究している。中でも今回紹介するのは、地域政策学科林寛一教授のゼミナールが取り組んでいる、「学官連携企画 僕たちはこう考える」。

公共政策フォーラム2006 IN 水戸において、「文化活動と連携するまちづくり」をテーマにした政策コンペがあり、林ゼミナールが『ねばり強い文化の街づくり～納豆文化の継承と発展～』と題した地域活性化案を発表。これが「日本公共政策学会会長賞」を受賞したことを契機とし、2007年10月、「まちぐるみNATTO博物館 ねばーランド水戸構想 ～NATTO(納豆)文化の再構築による地域活性化」を“政策提案”として、水戸市に提案した。この提案に対して水戸市では、「広報を通じた若者のまちづくり提案」として、「広報みと」に2008年3月、7月および11月(予定)の計3回掲載するこ

とを決定。

2008年3月15日号には、納豆を使ったまちづくり「ねばーランド水戸」、7月15日号には「さわやか気分で行ける道 スロー・ロ

ード」が掲載された。協働のまちづくりを推進するため、市民からの意見・要望を募っている。

常磐大学の学生が水戸のまちをどのように考えているのか、また自分たちが提案した政策を市民がどのように受け止めるのか、社会と関わることによって自分が学んだことを積極的に地域社会に問う、まさに“実学”の実践となっている。



政策提案が掲載された『広報みと』。

2007年度財務状況報告

◎2007年度決算は、5月23日の理事会で決議され、同日、評議員会へ報告された。

2007年度は、智学館中等教育学校の開設および、大学・短期大学の学科改組を控え、施設・設備関係支出の実績が目立った。それらは借入金に頼らず、すべて自己資金で賄い、第1号基本金の増額へつながっている。結果、次年度への繰越金減額となった。

貸借対照表をみて、多額の支出はしたものの全般的には安定した財務状況を維持するとともに、規模の拡大につなげることができた決算内容である。

ここ数年の気になる点としては、「学生生徒等納付金収入」の前年比減額と、「教育研究経費」の執行残額の点であり、今後、学生・生徒等の確保と、適正な予算配分・執行に努めなければならない。また、ここ数年来初めて、帰属収入に対する消費支出が超過したため、今後より一層帰属収入の増額を目指す。

■貸借対照表 2008年3月31日

(単位：千円)

区 分	2007年度末	2006年度末	増 減
固 定 資 産	25,830,094	24,308,080	1,522,014
有 形 固 定 資 産	22,058,131	20,541,829	1,516,302
そ の 他 の 固 定 資 産	3,771,963	3,766,251	5,712
流 動 資 産	4,853,576	6,450,235	△ 1,596,659
資 産 の 部 合 計	30,683,670	30,758,315	△ 74,645
固 定 負 債	781,128	790,736	△ 9,608
流 動 負 債	950,236	912,232	38,004
負 債 の 部 合 計	1,731,364	1,702,968	28,396
基 本 金	33,120,244	30,938,994	2,181,250
第 1 号 基 本 金	31,217,504	29,049,205	2,168,299
第 2 号 基 本 金	1,504,320	1,500,000	4,320
第 3 号 基 本 金	1,200	1,200	0
第 4 号 基 本 金	397,220	388,589	8,631
消 費 収 支 差 額	△ 4,167,938	△ 1,883,647	△ 2,284,291
翌年度繰越消費支出超過額	△ 4,167,938	△ 1,883,647	△ 2,284,291
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	30,683,670	30,758,315	△ 74,645

■資金収支計算書 2007年4月1日から2008年3月31日まで

収入の部 (単位：千円)

科 目	2007年度予算	2007年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,153,897	4,203,362	△ 49,465
手 数 料 収 入	96,388	108,206	△ 11,818
寄 付 金 収 入	15,000	1,600	13,400
補 助 金 収 入	930,224	998,281	△ 68,057
資 産 運 用 収 入	186,660	211,619	△ 24,959
資 産 売 却 収 入	500,000	500,000	0
事 業 収 入	69,072	71,303	△ 2,231
雑 収 入	14,981	94,398	△ 79,417
小 計	5,966,222	6,188,769	△ 222,547
前 受 金 収 入	748,395	896,251	△ 147,856
そ の 他 の 収 入	1,085,579	1,081,259	4,320
資金収入調整勘定	△ 819,152	△ 927,417	108,265
前年度繰越支払資金	6,357,413	6,357,413	0
収入の部合計	13,338,457	13,596,275	△ 257,818

支出の部

人件費支出	給与支出	3,193,617	3,063,358	130,259
	退職金等支出	15,022	99,140	△ 84,118
教育研究経費支出		1,443,471	1,267,452	176,019
管理経費支出		648,002	552,612	95,390
施設関係支出		2,116,109	2,092,400	23,709
設備関係支出		252,003	231,746	20,257
資産運用支出		1,500,000	1,500,000	0
小 計		9,168,224	8,806,708	361,516
そ の 他 の 支 出		93,079	101,841	△ 8,762
予 備 費		30,000		30,000
資金支出調整勘定		0	△ 53,985	53,985
次年度繰越支払資金		4,047,154	4,741,711	△ 694,557
支出の部合計		13,338,457	13,596,275	△ 257,818

■消費収支計算書 2007年4月1日から2008年3月31日まで

消費収入の部 (単位：千円)

科 目	2007年度予算	2007年度決算	差 異
学生生徒等納付金	4,153,897	4,203,362	△ 49,465
手 数 料	96,388	108,206	△ 11,818
寄 付 金	15,000	5,856	9,144
補 助 金	930,224	998,281	△ 68,057
資 産 運 用 収 入	186,660	211,619	△ 24,959
事 業 収 入	69,072	71,303	△ 2,231
雑 収 入	14,981	94,774	△ 79,793
帰属収入合計	5,466,222	5,693,401	△ 227,179
基本金組入額合計	△ 2,209,507	△ 2,181,251	△ 28,256
消費収入の部合計	3,256,715	3,512,150	△ 255,435

消費支出の部

人件費	給与	3,193,617	3,063,358	130,259
	退職金等	45,894	89,908	△ 44,014
教育研究経費		2,170,267	1,976,135	194,132
管理経費		761,940	656,156	105,784
徴収不能引当金繰入額		0	10,884	△ 10,884
予 備 費		30,000		30,000
消費支出の部合計		6,201,718	5,796,441	405,277
当年度消費支出超過額(△)		△ 2,945,003	△ 2,284,291	
前年度繰越消費支出超過額(△)		△ 1,883,647	△ 1,883,647	
翌年度繰越消費支出超過額(△)		△ 4,828,650	△ 4,167,938	

2007年度事業報告

通し、地域経済の実態と各社の実践する経営活動等について理解を深めると共に、社会人として必要な心構えや能力を育成すること

調印式 2007年4月11日

教育・研究関連事業

1. 情報メディアセンター開館時間延長
内 容 授業実施および試験期間内の情報メディアセンター利用時間を平日通常19時30分までのところ、21時まで延長、土日についても9時から17時までの利用を可能とする。
2. 交換留学制度
①大学
受入期間 2007年9月10日～2008年1月25日（6ヶ月）
内 容 カリフォルニア州立大学ノースリッジ校およびフレズノ校各5名を受入。
派遣期間 2007年8月14日～12月22日
内 容 カリフォルニア州立大学フレズノ校学部正規課程に1名、同大学ノースリッジ校ESL（英語研修）に1名を派遣。
②高等学校
受入期間 2008年3月27日～3月30日（4日間）
内 容 カナダ・アルバータ州エドモントン市の公立高校Harry Ainlay High School生徒23名を受入。
3. 100周年記念事業「第13回国際被害者学シンポジウム」開催準備
内 容 100周年記念事業の一環として世界被害者学会と「第13回国際被害者学シンポジウム」について、共催に係わる協定を結ぶ。
協 定 日 2007年6月2日
協 定 先 The World Society of Victimology（世界被害者学会）
開催期間 2009年8月23日～28日（6日間）

情報機器関連事業

1. 人間科学部サーバシステムリプレイス
内 容 人間科学部において各学科の実習、演習に敷設されているサーバシステムのリプレイスを行うと同時に、これまで分散していたサーバを統合し、学部共通サーバとして設置する。
2. Qs棟103教室バーチャルスタジオ設置計画
内 容 Qs棟103教室にスタジオ機器、バーチャル機能および編集、カメラ機器を統合し、アーカイブ事業、スタジオでの授業、教材作成に対応させる。
3. 新ネットワークサーバシステムの導入
内 容 ネットワークサーバシステムの更新に伴い、セキュリティ対策の向上、耐障害性の向上、保守性の向上およびデータベースと連携したウェブコンテンツの利用が可能となる環境を利用者に提供できるデータベースシステムならびに学内外への情報発信を促進するためのプログラムの導入を目指す。

地域連携関連事業

1. 市町村連携協定
連携協力事項
・知的資源、人的資源および物的資源の相互の活用に関すること
・地域の政策課題に関すること
・地域活性化に寄与する人材の育成に関すること
・共同で実施する事業の企画および推進に関すること
1) 笠間市連携協定
協定日 2007年5月24日
2) 桜川市連携協定
協定日 2007年12月10日
3) 茨城町連携協定
協定日 2008年2月22日
4) 那珂市連携協定
協定日 2008年3月18日
2. 産学連携
1) 社団法人茨城県経営者協会「産学連携講座」開設
目 的 茨城県を代表する企業経営者および管理者による講義を

管理運営関連事業

1. 2008年度大学・短期大学学部学科改組準備
1) 人間科学部健康栄養学科設置準備
時 期 2008年4月開設
定 員 80名
認可日 2007年12月3日
管理栄養士養成施設指定日 2008年3月28日
栄養士養成施設指定日 2008年3月28日
2) 人間科学部心理学科、教育学科および国際学部経営学科設置届出申請
時 期 2008年4月開設
定 員 人間科学部 心理学科 90名
教育学科 40名
国際学部 経営学科 70名
受理日 2007年6月25日
3) 短期大学改組準備
時 期 2008年4月
内 容 生活科学科を募集停止とし、キャリア教養学科の定員を見直す。
2. 中等教育学校設置準備
名 称 智学館中等教育学校
時 期 2008年4月開校
内 容 男女共学中高一貫6年制
位 置 水戸市小吹町2092
定 員 1学年120名（6学年720名）
認可日 2007年11月1日
2008年度入学志願者 219名
2008年度入学者 92名
初年度教員 校長 山田 隆士
教頭 内田 紀雄
専任教員 14名
教諭 10名、常勤講師 1名、養護教諭 1名
NET 2名
非常勤教員 4名
3. 理事、監事および評議員の報酬規程整備
内 容 理事および監事の報酬を見直すとともに、評議員報酬を「年額報酬」および「評議員会出席報酬」に分け、同時に評議員報酬の見直しを行った上で、「学校法人常磐大学役員及び評議員報酬規程」を整備する。
4. 地域連携センター設置
時 期 2007年12月15日
内 容 地域との積極的な連携推進を図り、魅力ある地域振興を実現するために、地域連携活動を組織的・系統的に取り組む総合的推進体制を整備することにより、本学における地域自治体、地域企業、地域住民などからの各種依頼や協力要請に関する窓口機能の一元化および地域連携ならびに貢献機能の強化を図る。また地域における政策や問題研究の拠点として中核的な役割を担い、地域自治体、地域企業、NPO等に様々な支援や政策提言を展開し、本学の持つ知識や情報、ノウハウを地域社会に広く還元することにより、地域密着型大学として地域に開かれた大学を実現する。

施設・設備整備関連事業

1. 校地購入（見和地区・新荘地区）
1) 見和地区土地購入（1566.44㎡）
茜梅寮（学生寮）敷地（7年計画の5年目）。水戸市土地開発公社所有地の購入を進める。
2) 新荘地区用地取得（801.81㎡）
長期土地購入計画の一環。用地拡張による施設の充実および狭隘性の是正。
3) 中等教育学校校地取得（20,061.29㎡）
中等教育学校開学に伴う校地取得。

2. 校舎改修

1) A・B・L・N棟改修工事

目的 人間科学部改組による健康栄養学科設置に伴い、A・B棟の一部を専用教室ならびに実験棟として改修すると同時に、短期大学既存学科の教室等を確保するため、B・L・N棟の普通教室について必要教室数および収容人員を考えた教室構想となるための改修を行う。

2) C棟東側環境整備工事

目的 正門から大学棟への新しい動線の確保を可能とし、利用者の利便性向上を目指す。

3) K棟改修工事(Ⅱ期)

目的 Qs棟へのIT関連教室移転に伴い、既存教室有効利用のため1階AVギャラリーの跡地整備を中心に行う。

4) 高等学校新荘施設整備

目的 同窓会館の駐車場不足を解消するため年次の周辺敷地拡張および諸澤みよ記念館の収蔵庫建設ならびに未整備エリアの駐車場化の実施。

5) 高等学校隣接地施設整備

目的 継続的に敷地確保および取得した土地整備および荒整地

- 第14号 学校法人常磐大学職員子女の授業料免除に関する規程の制定に関する件
- 第15号 学校法人常磐大学役員及び評議員報酬規程に関する件
- 第16号 学校法人常磐大学顧問、特別顧問および参与に関する規程に関する件
- 第17号 学校法人常磐大学顧問委嘱に関する件

第3回 理事会 2008年2月1日

<議事>

- 第18号 常磐大学高等学校および常磐大学幼稚園の校長等の選考および任免に関する規程の一部変更に関する件
- 第19号 役職者人事に関する件
- 第20号 常磐大学副学長の辞任に関する件
- 第21号 学校法人常磐大学役員等に関する規程の制定に関する件

第3回 評議員会 2008年3月26日

<議事>

- 第3号 寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員の選任に関する件
- 第4号 寄附行為第6条第1項第2号に規定する理事の選任に関する件

<諮問>

- 第13号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件
- 第14号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第15号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件
- 第16号 常磐大学高等学校学則の一部変更に関する件
- 第17号 智学館中等教育学校学則(案)の一部変更に関する件
- 第18号 常磐大学幼稚園園則の一部変更に関する件
- 第19号 智学館中等教育学校就業規則の制定に関する件
- 第20号 常磐大学・常磐短期大学就業規則の一部変更に関する件
- 第21号 学校法人常磐大学給与規程の一部変更に関する件
- 第22号 学校法人常磐大学定年規程の一部変更に関する件
- 第23号 学校法人常磐大学専任職員定数規程の一部変更に関する件
- 第24号 2008年度事業計画に関する件
- 第25号 2008年度収支予算に関する件

第4回 理事会 2008年3月26日

<議事>

- 第22号 寄附行為第25条第1項第3号に規定する評議員の選任に関する件
- 第23号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件
- 第24号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第25号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件
- 第26号 常磐大学高等学校学則の一部変更に関する件
- 第27号 智学館中等教育学校学則(案)の一部変更に関する件
- 第28号 常磐大学幼稚園園則の一部変更に関する件
- 第29号 智学館中等教育学校就業規則の制定に関する件
- 第30号 常磐大学・常磐短期大学就業規則の一部変更に関する件
- 第31号 学校法人常磐大学給与規程の一部変更に関する件
- 第32号 学校法人常磐大学定年規程の一部変更に関する件
- 第33号 学校法人常磐大学専任職員定数規程の一部変更に関する件
- 第34号 学校法人常磐大学任期制教員に関する規程の一部変更に関する件
- 第35号 2008年度事業計画に関する件
- 第36号 2008年度収支予算に関する件

2007年度理事会・評議員会報告

第1回評議員会 2007年5月25日

<議事>

- 第1号 寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員選任に関する件

<諮問>

- 第1号 2006年度収支決算に関する件
- 第2号 2007年度収支補正予算に関する件
- 第3号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第4号 中等教育学校設置計画に関する件
- 第5号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件

第1回 理事会 2007年5月25日

<議事>

- 第1号 2006年度収支決算に関する件
- 第2号 2007年度収支補正予算に関する件
- 第3号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第4号 中等教育学校設置計画に関する件
- 第5号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第6号 学校法人常磐大学常任理事規程および学校法人常磐大学給与規程の一部変更に関する件
- 第7号 就業規則等改正に伴う理事会制定規程の一部変更に関する件

第2回 評議員会 2007年12月6日

<議事>

- 第2号 学校法人常磐大学寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員の退任および選任に関する件

<諮問>

- 第6号 2007年度収支補正予算に関する件
- 第7号 資産運用に関する件
- 第8号 財団法人常陽明治記念会の資産取得に関する件
- 第9号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第10号 学校法人常磐大学給与規程の一部変更に関する件
- 第11号 大学教員の勤務および服務規程の一部変更に関する件
- 第12号 学校法人常磐大学職員子女の授業料免除に関する規程の制定に関する件

第2回 理事会 2007年12月6日

<議事>

- 第8号 2007年度収支補正予算に関する件
- 第9号 資産運用に関する件
- 第10号 財団法人常陽明治記念会の資産取得に関する件
- 第11号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第12号 学校法人常磐大学給与規程の一部変更に関する件
- 第13号 大学教員の勤務および服務規程の一部変更に関する件

常磐大学大学院
常磐大学
常磐短期大学
常磐大学高等学校
常磐大学幼稚園
智学館中等教育学校

入学定員と学生数

2008.5.1現在

研究科・学部・学科名 (開設年度)	入学定員	収容定員	現 員
常磐大学大学院			
人間科学研究科			
博士課程 (後期) (1993年度)	6	18	5
修士課程 (1989年度)	10	20	13
被害者学研究科 (2005年度)	20	40	10
コミュニティ振興学研究科 (2004年度)	20	40	9
常磐大学			
人間科学部			
人間関係学科 (1983年度)	—	—	6
組織管理学科 (1988年度)	—	—	1
心理教育学科 (2004年度)	—	380	325
心理学科 (2008年度)	90	90	89
教育学科 (2008年度)	40	40	41
現代社会学科 (2004年度)	80	400	324
コミュニケーション学科 (1983年度)	80	340	307
健康栄養学科 (2008年度)	80	80	75
国際学部			
国際協力学科 (1996年度)	—	—	2
国際ビジネス学科 (1996年度)	—	—	1
国際関係学科 (2004年度)	—	448	257
経営学科 (2008年度)	70	70	90
英米語学科 (2004年度)	60	252	182
コミュニティ振興学部			
コミュニティ文化学科 (2000年度)	60	296	211
地域政策学科 (2006年度)	60	186	127
ヒューマンサービス学科 (2000年度)	80	358	289
常磐短期大学			
キャリア教養学科 (2003年度)	140	270	280
幼児教育保育学科 (1968年度)	140	280	274
生活科学科 (1966年度)	—	130	130
常磐大学高等学校			
常磐大学高等学校 (1948年度)	600	1800	1157
智学館中等教育学校			
智学館中等教育学校 (2008年度)	120	120	92
常磐大学幼稚園			
常磐大学幼稚園 (1970年度)	55	175	172

寄付者ご芳名 *敬称略 [期間 2008年5月~8月]
ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

◆一般寄付

寄付者	金額	内容
田中 久美子	100,000円	常磐大学高等学校に対する教育支援

寄付金のお願い

この寄付金は、学校法人常磐大学における教育および学術研究の充実、発展を目的としたものです。この寄付金を園児、生徒、学生の教育や教員の研究活動へ有効に利用させていただき、地域や社会に貢献する教育機関として一層の努力をしてゆく所存です。皆様の格別なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆募集要項

目 的	学校法人常磐大学が行う教育研究に関わる活動に対する支援
募金対象者	個人 (卒業生、保護者、教職員、一般有志)、法人、団体
金 額	特に定めておりません。
申 込 方 法	下記の寄付資産運用課までご連絡をいただければ、寄付申込書等の関係書類をお送りいたします。
免 税 措 置	この寄付金は、税制上の優遇措置を受けることができます。
寄付者顕彰	ご寄付を賜りました方へのお礼と感謝の意をこめて、学報等にご芳名等を掲載させていただきます。

◆申込み及び問い合わせ先

学校法人常磐大学 寄付資産運用課 TEL: 029-232-2759 E-mail: kifu@tokiwa.ac.jp
※寄付金の申込みは任意ではございますが、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



※第23回国民文化祭・いばらき2008 学校法人常磐大学は、国民文化祭・いばらき2008を応援しています。
平成20年11月1日(土)~9日(日)

—表紙写真解説—

Tokiwa Memories *2

創立者諸澤みよの胸像除幕式が1964年に常磐女子高等学校(現・常磐大学高等学校)で挙行された。現在は高校の校長室脇に設置。また、複製された胸像は、見和キャンパスの本部棟エントランス、諸澤みよ記念館にも設置され、訪れる者を温かく見守っている。

編集後記

朝夕の風に涼しさを感じる季節となりました。賑やかだった夏是北京オリンピックと共に去り、どことなく淋しい秋の始まりです。そして世界の経済界にも秋風が吹きだしました。サブプライムローン問題で巨大な証券会社が市場から撤退。国内でも食品偽装問題で幾つかの会社が倒産しました。社会の動きを的確に捉え改革を実行する、その重要性を実感させる出来事です。